



町長回誌

No.268

町長日誌の第 268 号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

2月14日 (土曜日) AM10:20

朝から大粒の雪が降ったりやんだりしています。今年は吹雪や大雪は少ないのですが降雪量は平年より多いことから、除雪費用がかさむとして国は3月分の特別交付税から2千万円を前倒しで交付してくれました。感謝です。私は来週月曜から札幌で様々な年度末の役員会があるため木曜まで出張が続きます。そのため今日は役場で、日誌や遅れている原稿づくりなどの仕事に励んでいるところです。

2月12日 (木曜日)

訓子府町にある「北見農業試験場」の新庁舎落成式に出席してきました。この試験場は管内の農作物の育成試験や品種改良さらには食味などの研究をしています。始まりは1907(明治40)年で、現在の北見市屯田町に「北海道庁地方農事試験場北見分場」が設置されました。その後、1959(昭和34)年に現在の地訓子府町に移転されました。それから66年経過した今年、新しい庁舎が同じ敷地内に完成したのです。この試験場の役割はあまり知られていないと思いますが、古くはハッカ・水稻の品種改良に始まり、牧草ではチモシーの「センボク」を育成、現在名寄を中心に栽培されているもち米品種「ハクチョウモチ」や歴代の小麦の改良品種を育成、昨年は小麦地帯の悩みの種である縞萎縮症に強い「きたほなみR種」の開発に成功、来年からすべてこの品種に入れ替わる予定です。このように、常に管内農業の先導的役割を果たしている重要な研究機関なのです。

2月13日 (金曜日)

令和8年度の興部高校入学希望者が定員一杯の40名となりました。現在、興部高校は1クラス限定の「地域連携特例校」として再編(他校に統合)を留保されています。この再編の条件は入学生が20人以下になった場合です。しかし、小規模高校を抱える自治体と道教委との協議により、直ぐに再編を行うのではなく一定期間入学者の状況を見た上で判断すると言う事です。ただし、10人を2年続けて切った場合はその時点で募集停止となり再編統合となります。また、地元中学校からの入学生が一定数いることも条件の一つとなります。このような背景のなか、興部高校の入学生は令和元年度の20名を最後に10数名が続き、特に令和5年度は7名と10名を切ると共に興部中学校からの入学がゼロになってしまいました。このようなことも想定して町は「公営塾」という町営の塾を高校内に設置して、授業のサポート、放課後の受験勉強や生徒が関心のある取り組みを応援、学校祭など学校行事への協力、さらには中学生の勉強をサポートするなどの取り組みを令和4年10月から試行をはじめ、令和5年度から本格的に3人の講師を配置して取り組んでまいりました。その成果が徐々に生徒へのアンケート等にも反映されるようになり、今回の入学希望者数となりました。子供たちは私たち大人以上に様々な情報を得て敏感に反応したり、悩んだりして進路を考えていると私は思います。大切な人生ですから興部高校を選ぼうとしている生徒の皆さんが選んで良かったと思える興部高校になるよう町としてもサポートを考えていますが、町民皆さんの応援もお願いします。

冬まつりが全道各地で開催されています。興部の「ミニミニ冬まつり」は明日開催されます。さて、衆議院が国会の冒頭解散に始まり厳冬期の短期決戦、野党が新党結成とまさにお祭りのような衆議院選挙が終わり、自民党が316議席、北海道は11勝1敗、東京では全勝など記録尽くめの選挙となり、高市早苗旋風どころか爆弾低気圧のような威力で野党に圧勝しました。

「平和」を謳うリベラルは「何もしないこと」と同じと考える若い世代が総理の演説に酔いしれたようです。政治は時代を反映しますから善し悪しは後の時代が判断するのでしょうか、私たち首長はいつの時代も町の将来を見据えた事業予算の確保のため、選ばれた議員を通じて省庁に要請活動をしなければなりません。興部高校を選んでくれた生徒たちが夢の持てる政治となるよう期待しましょう! では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など(使い古しのもので構いません)に入れ、封をして、役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務係まで。TEL 82・2131です。